

伝統技術を守り続けて

J A加美よつば女性部と、加美町生活研究グループでは、お正月を迎えるのに欠かせない「しめ縄づくり」を毎年行っている。

加美町は、世界農業遺産にも認定された大崎耕土の西部に位置しており、その豊かな土地で大切に育てられた稲の副産物である「わら」を使い、地域の女性たちによって一本一本丹精込めて作られたしめ縄は、主に生活クラブ生協を通して販売されている。

この取組は、1985年（昭和60年）頃より本格的に始まったが、生活習慣や住宅状況の変化、制作者の高齢化などにより出荷本数は減少してきているが、今シーズンも1万8千本を出荷する。

制作者の1人、加美町農業委員の佐藤ともさんは「農家にとって貴重な冬場にできる作業なので、毎年楽しく作っている。今年も全国の皆さんに届けることが出来てとてもうれしい」と話す。また、地域の小学校で行われる「しめ縄づくり」体験の講師を毎年務めており、「伝統技術」を継承していく活動にも一役買っている。



それぞれの家庭で作られたしめ縄は、J A加美よつばに集められ、町内にある神社の神主に祈祷を受けてから出荷される。